

いろの化学

エスカレーターで展示場3階に降りると、左側にパッと目を引く色あざやかな展示があります。ここは、色にまつわる様々な資料や解説パネルが並ぶ「いろの化学」のコーナーです。私たちの身近なところにある画材だけではなく、日本画における伝統的な顔料である岩絵の具も展示しています。

さてここで問題です。絵の具に使われているのは染料でしょうか、顔料でしょうか？そもそも、染料と顔料は何が違うのでしょうか？答えは展示場でご覧ください。



展示場3階「いろの化学」(一部)



日本の伝統色のパネル

この展示の右端には、日本の伝統色(465色)をまとめたパネルがあります。展示場を歩いているとこのパネルをご覧になっている方をよく見かけるので、私もこの機会にじっくり眺めてみました。たくさんの色のひとつひとつに個性的な名前がついていて、思わず見入ってしまいました。若苗色(わかなえいろ)・新橋色(しんばしいろ)・紫苑色(しおんいろ)あたりの色合いが好きだなあと思いました。みなさんもぜひお気に入りの色を見つけてください。

宮丸 晶(科学館学芸スタッフ)

学芸員の
展示場ガイド

「学芸員の展示場ガイド」では、サイエンスガイドの方と色々な展示を動画で紹介しています。ホームページからアクセスできますので、ぜひご覧ください!